文献 ID：13-13-001

1．基本情報

区分	市街地	担当者名	尾崎則篤
タイトル（英文）	Run-off from and weathering of roof material following the Chernobyl accident		
タイトル（和文）	チェルノブイリの事故の後の屋根からの流出と風化作用		
キーワード	Transport models; Radionuclide transport in urban runoff; Emergency preparedness		
著者	Roed, J.		
文献	Radiation Protection Dosimetry (1987) 21: 59-63		

（1）対象地域

チェルノブイリ事故に起因する大気降下により，屋根に堆積した放射性物質の雨水による流出を調査した．直後（1986/05/08, 1986/05/31）とやや日数が経過したのち（1986/08 月と 12 月）の流出量を比較した．異なる屋根の材質や勾配による比較も実施している．

（2）重要な図表

流出率が直後と日数が経過したのちでは大きく異なり，日数が経過すると流出量は小さくなるという傾向があった．

2. 提言につながる情報

（1）モニタリングへの活用

勾配の大きい屋根の結果であるのでそれ意外のフィールドに適用する際には注意が必要であるが，傾向に関しては普遍的で重要な結果が得られていると考えられる．すなわち：

- 放射性核種
- 表面の素材
- 堆積からの経過時期

これらにより流出率が大きく異なるという点は普遍的な傾向を表す重要な結果であると考える．

（2）流出挙動・経路

（3）除染の際の留意点

数ヶ月以上経過した表面堆積は降雨によってもそこにとどまったままなかなか流出しない．

（4）担当者のコメント

Urso et al, 2013 にとっては重要な基礎情報(Table 2 の値)となっている．材質が類似の流出利の結果を道路からの流出率のパラメータに適用しているが，勾配の有無が異なるのでこのような適用はあらっぽいような気はする．